



炊事は薪（たきぎ）で



石垣横の水路

家の裏にある泉。すべてこの湧水でまかぬ。涸れることがないという。

仏法領ぶつぱうりょう 第六十二号

発行：真宗大谷派
念信寺
☎ 0930-42-0329
Fax 42-0502
ホームページ
nenshiji.org

もつたいないの精神
平成■さんは上高屋在住、大正■年生まれとおっしゃるから、御年■歳。■さんが元気であるについてはチャンとわけがあるので、病氣をする暇がないのです。

澄む

澄んだ水。澄んだ瞳。人は年齢を重ねることに、素直になれる。

この人は、瞳を輝かせながら、嬉しそうに語る。

日の出前に起き、炊事を行

う。日課は、ラジオ体操。薪を集め、畑も耕す。

二人の娘の話題になると、尻が下がり、幸せそうだ。
こんな歳の取り方をしたいと感じた。

一般に、人は自然に逆らって生きていゆけない。身の回りの自然と折り合いで、共存してゆくしかない。自然の恵みをうまく利用できれば、スイッチひとつでご飯ができる

ような便利さ華やかさはなくとも、人は十分に生きてゆくことができる

る。



水は山からの湧水、ご飯はかまどで炊く、生活湯は薪で沸かす、生活に必要とされた物は何でも大切に保管し

ておく。昔ながらの暮らしですが、それで何の過不足も生じない。羨ましささえ感じられる。

ただし、恵みを頂くにはコツコツとした地道な努力が必要なことを示している。

湧水の通路は常に掃除をする、薪は木を切り割いて常に乾燥させてお



②生活の場から、道場へ身を運んでお参り。どんな話が聞けるかな？

①お寺の準備が整って、30分前と直前にお参りの合図の喚鐘（かんしょう）を打ちます。

く、野菜を育てるために毎日畑に出る。毎日やることがいっぱいあるとのこと。そのため一日は大変忙しい。朝四時には起きるとのこと。
■さんが元気であるについてはチャンとわけがあるので、病氣をする暇がないのです。

村の詰め 佳き人住まふ 曼珠沙華
総代を丹念に務めて下さった■さんを詠つた前坊守、悦美的句です。
■さんは、今回取材をお願いした
■さんの連れ合いで、十一年前にご命終、ご往生された篤信の同行です。前号でお御堂を取りあげました。今回、聞法道場である本堂にどのような人々がお参りしてきたのか。そのことを門徒さんはじめ多くの方に是非お伝えしておきたいと■さんにお願いして、編集委員さんと■家を訪問しました。

新総代

さんつてどんなひと？



九月に新任の総代として []さんが選任されました。[]さんには昭和 []年生まれ。今年で []歳。

永年、行橋市の会社に勤めていたそうです。お住まいは []。

会社員時代には労組委員長、内壇区では六年間区長を務められたそうで、ひとの世話をする事には十分に慣れていると思います。

趣味は多芸で、盆栽は五十年の年季、プロといつてい。ゴルフも永年の趣味。グランド・ゴルフ、これも半端じやない。九州大会に出場するほどの腕前。奥さまもグランド・ゴルフが趣味という、うらやましい限り。多芸のため極めて多忙。場合によつては、お寺の用務よりも、趣味を優先させることがあるかもしれないとのこと。写真を拝見すると、厳正で取つ付きにくいと思われるかもしれません、そうではない。非常にざつくばらんで、結構話しやすい。

相談すれば、盆栽、グランド・ゴルフ、その他なんでも気軽にかつ親切に教えてくれること間違いなしでしょう。

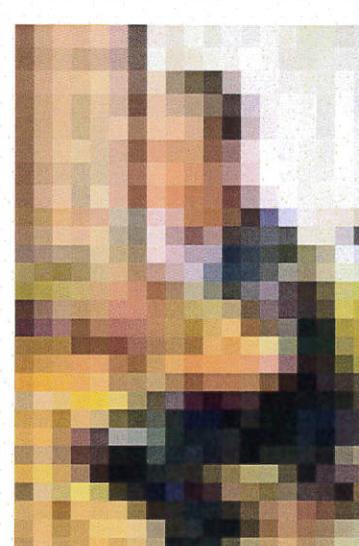
就任にあたつてのご本人の談
「お寺の事については何も知らないのですが、一生懸命努めますのでよろしく」とのことでした。

(阿部正紀)

昨年、御正忌の準備光景



池田さんの演奏する「ふるさと」を聞いてみると、心中で故郷を思い出した。私のふるさとは上高屋だ。山と田んぼに囲まれた山村。小さな小学校に大きなお寺。夕方になるとお寺の鐘の音が響き渡る。きっと、会場の皆さんも故郷を思い出していただろう。



「サントリーオールドのCMテーマ曲」をマンドリンで弾きながら、会場の皆さんをゆっくりマンドリンの世界に引き込む。

言葉を残す。

マンドリン演奏者 []さん

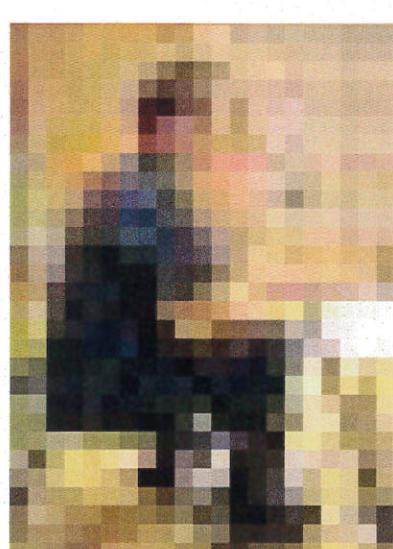
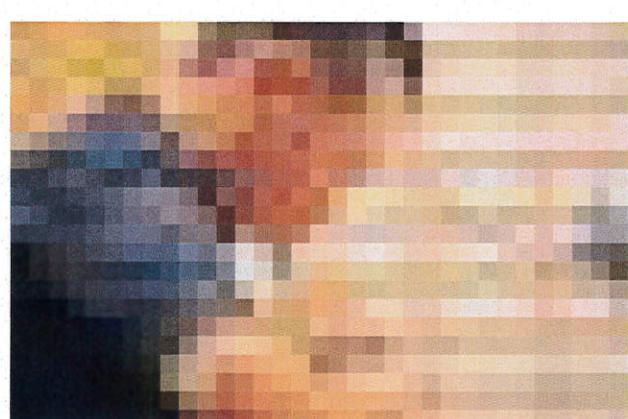
続いて昭和流行歌の傑作のひとつ、古賀政男作詞・作曲「影を慕いて」を演奏。昭

和初期の時代が混乱する中できた曲を、一心不乱にマンドリンを爪弾く池田さん。

「現在の平和な世の中を感謝している」と

最後は、「螢の光」を演奏。日本の唱歌として馴染みはあるが、原曲はスコットランド民謡「オールド・ラング・サイン」。音楽には国境が無く、人々の心に届く曲がある。「私は色々な所に出向いて、音楽活動を行うのが好きだ」と話した横顔が印象的だった。

(大迫 光浩)



お寺でイベート！

法要での法話



伊藤先生は、真宗の教えについて次の二点をお話しされました。

一、この世は雑会（そううえ）である。

この世は出会いの連続です。単純でない出会いの連続です。そして出会いを選ぶことも出来ません。

一、因は是善惡。果は是無記。

あまり努力しないでも幸運を得る事もありますし、努力しても必ずしも良い結果が得られないこともあります。

念信寺では、「春の彼岸法要（三月下旬）」「皆作法要（六月下旬）」「秋の彼岸法要（九月下旬）」「御正忌・報恩講（十一月下旬）」を各三、四日間で執り行っています。すでに皆さまご存知のとおりです。私も皆勤賞ではありませんが都合をつけてお参りしています。

「○○さんは今日も見えてるかな?」「△△さんはお元気じやろか?」と年に数回しか会えない人に会える楽しみもありますがやはり「今日の法話はどんな話やろか?」が一番の関心ことです。楽しみであり期待するところです。

今回のこの寺報では講師の



方の横顔や専門分野がより詳しく予告されますので、益々ご期待頂けると思っています。

法話の全てを理解し実行に移すことは私には不可能です。私なりに毎回の講師の方のお話から自分に役立ちそうなもの（都合の良い）を日々の生活に取り入れようとしています。

今回は去る九月二十四日の「秋の彼岸法要」での伊藤元講師（小倉徳蓮寺前住職）の法話を振り返って

私の感覚だとこうを書き綴つて

こうを書き綴つて

見ます。

一心に仏具を磨く姿は美しい
御正忌のための仏具おみがき加勢募集

十一月十九日朝



（以上が講師のお話です）

まとめたところの私の理解と勉強になつた要点は次の通りです。

予想しなかつた結果をどう受け止めて受け容れて背負つて行くのか。上手く行かないことに気付くことも大事です。

伊藤講師より、このことに気付くことが大事であろうと指摘されました。

上手く行かない時には、人は自分を傷つけたり、他人を攻撃したり、恨みつらみをばらまいたります。そして少し冷静になつて、結果から原因へと考えが向きますと、いろんな原因があることに気付いて行きま

す。

二〇一五年

四日市別院報恩講

十二月十二日（土）～十六日（水）
十五日（火）京都組団体参拝
バスで参拝 参加費四千円



二〇一六年

教区・別院 親鸞聖人七百五十九回忌御遠忌法要

四月十九～二十三日
京都組団体参拝 四月二十一日
帰敬式は四月二十一日

お稚児さんは、二十三日に。お稚児、定員になり次第締め切りますので、希望者は早めにお申し込み下さい。

このように法話は宝の宝庫と思って拝聴しています。私は自己流に解釈して自分の生き方のヒントにしたいです。今回はチト偉そうに書き綴つてみました。いろんなお声が上がつてしまつますが、私の法話の生かし方を述べてみました。ご参考になれば幸いで

す。

（物忘れが始まつたおいさん）



帰敬式（おかみそり）のご案内



日豊教区・四日市別院
宗祖親鸞聖人七百五十九回忌御遠忌法要



四月十九日（土）～二十三日（水）
京都組団体参拝 四月二十一日
帰敬式は四月二十一日
お稚児さんは、二十三日に。お稚児、定員になり次第締め切りますので、希望者は早めにお申し込み下さい。



別院行事予定

二〇一五年

四日市別院報恩講

十二月十二日（土）～十六日（水）
十五日（火）京都組団体参拝
バスで参拝 参加費四千円

御正忌・報恩講ご案内

二〇一五年、平成二十七年、今年も年末が近づいて参りました。
皆さまいかがお過ごしですか？報恩講を左のように厳修致します
ので、どうぞお参りください。

●日時　十一月二十一～二十四日

日時	午前十時～	十二時～	午後一時～	午後七時～
二十一日（土）	法話一席	おとぎ	法話二席	
二十二日（日）	法話一席	おとぎ	ご伝説・法話	
二十三日（月）	法話一席	おとぎ	法話二席	
二十四日（火）			子ども報恩講 登高座門徒焼香	大遠夜・講話 一人芝居・感話

●講師　長倉　伯博　先生　二十一～二十二日

鹿児島市　善福寺住職、ビハーラ僧、滋賀医科大学非常勤講師、二〇一三年仏教伝道文化賞　沼田奨励賞受賞

●講師　野口　隆義　先生　二十三日

門司在住　青少年問題カウンセラー、北九州市「夜の子ども相談室」主催、浄土真宗本願寺派の本山委員を歴任

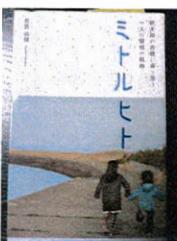
●講師　外松　太恵子　先生　二十三日

豊津　のぐちクリニック院長　地域医療の課題について

長倉先生のコメント

日本では、病院で僧侶の姿を見かけることはほとんどありません。しかし患者さんとそのご家族は生老病死の苦悩の真っ只中にいます。この二〇数年、病院付き僧侶（ビハーラ僧といいます）として切なくて温かい多くの出遇いがありました。「あなた往く人、私も少し遅れて往く人、共に浄土に歩む人」ということを支えに活動して来たささやかな経験をお話します。

念願していきます。



本願寺出版



外松先生のコメント

先生は多くの著述をなさっています。コメントをお願いしたところ、どの本をお読みですかとたずねられ、持つてない著書を送つて下さり、そこから抜粋して下さいとのことでした。かえつて恐縮しました。先生の柄が偲ばれる達筆のサインを先生のコメントにさせて頂きます。

十五



昨年の年末懇親会



23日夜、大遠夜後の鍋

去年の御正忌



講師の古田和弘先生をお見送り

法座予定

二〇一六年

輪読会

十一月二十九日（日）午後6時半

●春彼岸法要

三月二十七～二十九日
講師　祖父江　圭乃　師

●皆作法要

六月二十四～二十六日
講師　伊藤　元　師

●秋彼岸法要

九月二十八～三十日
講師　松月　博宣　師

念信寺行事予定

●輪読会

十一月二十九日（日）午後6時半

念信寺同朋会

多くの方のご参加をお待ちしています。

●除夜の鐘

十二月三十一日、一月一日
午後一時半より

念信寺行事予定

●輪読会

十一月二十九日（日）午後6時半

念信寺行事予定

●輪読会

十一月二十九日（日）午後6時半

念信寺行事予定

●輪読会

十一月二十九日（日）午後6時半

回は編集委員さんにも、巻頭の記事を書いてもらおうとの魂胆です。上高屋でこんな澄んでいる水を見たことがなかつた！日本の原風景だ、感動した：。住職の思うつぼでした。（笑）

農業の営みは、「自然の継承と循環、集落の継承と循環の中に展開している」と哲学者の内山節は言っています。では個人はどうの生きてきたのかを私なりに考えると、歴史や伝統という縦軸と自然や人とのかかわりという横軸の交わるところに自分の生存を見出し、めいめいが自分の人生の折り合い、意味を見つけてきたということでしょう。

縦軸と横軸に限りない智慧と慈悲、阿弥陀なるはたらきを実感し、日々の営みでの自分の計らいを罪惡深重と見つめ、接点としての個を確かめ自覚するというのが浄土真宗という宗教が荷なってきた意味でないかと思います。

現代の私達はしっかりと生きる意味を見失い、欲望や自我意識に振り回されて、あたかも漂流するかのことくに生きています。もう一度、先達が営んできた生活の原点を確かめることの大しさを実感しています。

百聞は一見にしかず。「確立した個」、立派な人間になろうなどという自己意識から出発しなくとも、手応えのある人生を送ってきたのが父祖の生涯でした。お念佛の中に人生をいただけ、堂々と生きていきましょう！レツ、ナンマンダブ！



お斎検討委員会（仮称）を6人の方にメンバーになつたいただき発足しました。お斎をいかにしたら美味しい召し上がりいただけるかの視点で、提供する側の効率等も考えながら検討しています。



念信寺だより

念願していきます。



本願寺出版

あとがき

十月二十五日、阿部正紀（記事担当）さん、大迫光浩（写真担当）さんと村上家を訪問。今

